



平成30年 3月29日 第30号

伊勢原市協働事業完了報告書

伊勢原市長 殿

住 所 平塚市北金目4-1-1
団体名 東海大学 文学部広報メディア学科
水島研究室
代表者氏名 教授 水島 久光

平成29年 7月24日付けで協働事業採択決定通知を受けた事業が完了しましたので、伊勢原市市民協働事業提案制度実施要綱第14条の規定により、関係書類を添えて次のとおり報告します。

1 協働事業の成果

協働事業名	ドキュメンタリー番組 「伊勢原の中学生がヒロシマで学んだこと」作成事業
事業費総額	308,931 円
事業期間	自 平成29年 7月 24日 至 平成30年 3月 31日
実施場所	平和記念公園（広島県広島市中区中島町1）、伊勢原市民文化会館 小ホール ほか
参加者数	192人（「第31回平和のつどい」来場者数）
事業実施内容及びその成果	一昨年、昨年に続き、伊勢原市の中学生で構成された「中学生ヒロシマ平和の旅派遣団」の広島平和学習事業「中学生ヒロシマ平和の旅」に東海大学学生が同行し、平和学習の様子をドキュメンタリー番組に収め、その映像を「第31回平和のつどい」にて公開した。 今年度は「平和の旅」の行程企画から共同で行い、中学生たちと取材する大学生との距離を縮め、旅を通じて学生がどのように戦争を学ぶことに対する意識を変化させたかを描き、好評を博した。

2 添付資料

- (1) 伊勢原市協働事業収支決算書（第8号様式）
- (2) 協働事業の実施に要した費用の領収書等の写し
- (3) その他市長が必要と認めるもの

第8号様式（第14条関係）

伊勢原市協働事業収支決算書

協働事業名	ドキュメンタリー番組 「伊勢原の中学生がヒロシマで学んだこと」作成事業
団 体 名	東海大学文学部広報メディア学科 水島研究室

収入の部

区 分	決 算 額 (円)	内 訳 (数量、単価等)
水島研究室研究費	158,931	大学において配算された研究費及び教材費
市負担金	150,000	提案型協働事業負担金
収入合計額	308,931	

支出の部

区 分	決 算 額 (円)	内 訳 (数量、単価等)
出張取材費	213,311	新幹線 (93,120)、新幹線以外の交通費 (3,090)、ホテル (36,980)、タクシー (2,060)、食事・飲食代 (11,181)、資料費 (5,860) * 以上市負担金より+水島出張費*研究室研究費より (61,020)
映像制作費	95,620	ハードディスクユニット (48,900)、メモリーカード (17,700)、コルクボード (29,020)
支出合計額	308,931	

ドキュメンタリー番組「伊勢原の中学生がヒロシマで学んだこと」作成事業
事業評価シート

段階	評価項目
準備段階	1. 協働が開始された段階はいつからか ☒企画の段階から ☐実施段階から ☐その他（ ） 2. 協働の呼びかけはどちらからか ☐市民活動団体 ☒市 ☐その他（ ） 3. 協働で行う意義は明確だったか ☒はい ☐いいえ 意義〔公共的な意義のある事業を行うことができた。〕 4. 事業の目的は明確だったか ☒はい ☐いいえ 目的〔戦争の悲惨さを語り継ぎ、恒久平和をめざすための意識の高揚を図る。〕 5. 事業の目標（何がどのような状態になることを意図しているか）は明確だったか ☒はい ☐いいえ 目標〔旅を通じて中学生がどのように戦争を学ぶことに対する意識を変化させたかを描き、平和希求の願いを込めた催しに参加した市内中学生の旅日記の映像を多くの市民に見てもらう。〕 6. 市民活動団体選定のプロセスは適切だったか ☒はい ☐いいえ 理由〔 〕 7. 相互理解は十分だったか ☒はい ☐いいえ 理由〔 〕
実施段階	8. 協定書作成にあたって十分協議したか ☒はい ☐いいえ 理由〔 〕 9. 事業運営上の役割分担は適切だったか ☒はい ☐いいえ 理由〔 〕 10. 進捗状況や情報を共有できたか ☒はい ☐いいえ 理由〔 〕 11. 実施プロセスの記録を残せたか ☒はい ☐いいえ 理由〔 〕 12. 互いの特性を活かすことができたか ☒はい ☐いいえ 理由〔 〕
終了後の段階	13. 事業内容の報告を作り、公開できたか ☒はい ☐いいえ 理由〔 〕 14. 目的・目標は達成できたか ☒はい ☐いいえ 理由〔 〕 15. 今後の課題と改善策を話し合ったか ☒はい ☐いいえ 理由〔 〕 16. 総合的に見て事業に対する満足度は 【 ⑤ 4 3 2 1 】 理由〔 〕 17. その他、気づいた点